

巻 頭 言

平成31年の幕開けとともに始まった新型コロナウイルスの拡大。2年たった今もその脅威は留まることを知りません。今年度も様々な行事が中止となり、普通と思われていた生活を続けることが難しい日々が続きました。当たり前と思っていたことが実は尊いことだったのだと改めて思わされる毎日です。

昭和35年、県が「親子20分読書運動」として推進したことで始まった「親子読書運動」。その礎を築いた椋鳩十氏は、戦後まっただ中の昭和22年に鹿児島県立図書館長として就任しました。日々の暮らして精一杯だった戦後から高度成長期へと変化する中、県下に読書をとおして文化を届けようとする取組の一つに、「親子読書運動」がありました。そのきっかけは、旧宮之城町(現在のさつま町)の流水小学校で実践されていた取組でした。試行錯誤しながら取り組まれていた椋先生にとって、流水小学校の取組は一筋の光を見るようであったに違いありません。読書によって親子のふれあい、絆を深めることがこの運動の目的の一つです。人との物理的な距離が心理的な距離になってしまいそうなコロナ禍において、子供たちのために、本に親しむ時間や場所を作り、豊かな本の世界へ誘うために奮闘する読書グループや保護者の皆さんの姿は、状況は違えど、まさに暗闇を照らす光と言っても過言ではありません。

今年度の県内の読書グループの結成や活動に関する状況を見ると、昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、グループの活動を休止したり、行事を取りやめたりと、苦しい選択を迫られているグループが多くありました。その中で、通信機器を利用しながら情報交換をしたり、会報を作成して情報を提供したりするなど、工夫を凝らしながら活動を継続しているグループもありました。また、今年度新たに結成された読書グループもあり、読書グループ数に減少は見られません。やむなく活動を休止している読書グループも、会員の誰もが読書の灯火を胸に抱き、闇が明けることを心待ちにしていることと思います。また、今年度は、鹿児島県の親子読書活動に尽力されている鳥羽啓子氏が第51回野間読書推進賞を受賞されました。鳥羽氏の受賞は私たちにとっても大きな励みとなりました。心よりお祝い申し上げます。

本誌「さざなみ」は、親子読書に関わるみなさんのために参考となる研修会の情報や子ども読書推進のための様々な取組、本県の読書推進活動の状況などをまとめ、県立図書館ホームページ上にも公開し、多くの方に御活用いただいております。本誌作成にあたり、御多用な中に御寄稿くださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

今後も「親子読書運動」の理念を大切に、親と子の、あるいは子供同士のあたたかな交流を通して、豊かな読書の世界を子供たちの中に広げていただければ幸いです。